

青少年奉仕活動としての子ども食堂の運営・支援

日出ロータリークラブ会長

2020-21 年度大分第 3 グループ IM 実行委員長

加賀山 茂

I わが国における子どもの貧困の実態

1. 一億総中流という神話

日本社会は、世界のような大富豪もいない代わりに、貧困もなく、総中流社会であると多くの日本人が信じてきた。しかし、多くの子どもが貧困に苦しんでおり、一億総中流という考え方は、神話に過ぎない。

2. 日本の相対的貧困率は実は大きい

2006 年 7 月、経済協力開発機構（OECD）が、日本の相対的貧困率（全世帯の所得の中央値の半分以下の世帯の割合）が OECD 諸国の中でアメリカに次いで第 2 位であると報告した。これは、日本人に衝撃をもって受け止められ、マスメディアにおいても報じられた。

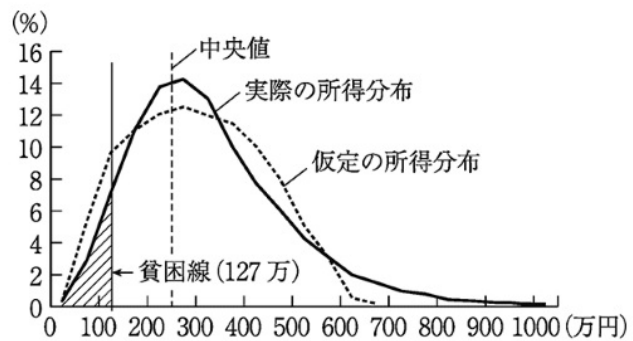
厚生労働省の調査によると、日本では、相対的貧困（年収 122 万円以下）が全人口のうちに占める割合は 15.7%。日本人の約 6 人に 1 人が貧困層に該当する計算になる。

OECD 加盟国の平均は、11.8%（2019 年 8 月）で、日本は先進国の中でも、相対的貧困の割合がかなり高い国となっている（阿部彩『子どもの貧困－日本の不公平を考える』岩波新書（2016）48 頁）。

しかも、母子家庭の相対的貧困率

（66%）は、両親と子どもの核家族世帯、および、三世帯世帯の貧困率（11%）に比較して突出して高い。

なお、母子世帯の平均年収は 212 万円（一人当たり 81.3 万円）であって、母子家庭の約 7%が生活保護にかかっていると推定されている。



注：貧困線＝127万円。世帯単位でみると、一人世帯では127万円、二人世帯の場合は、 $127 \times \sqrt{2} = 180$ 万円、4人世帯の場合は、 $127 \times \sqrt{4} = 254$ 万円である。
出所：「国民生活基礎調査」2004年から筆者推計

図2-1 日本の等価世帯所得の分布と貧困世帯(2004年度)

Ⅱ 貧困であることがなぜ問題なのか

1. 親の貧困が子どもに与える影響

(1) 親の貧困は子育て環境を劣悪化させる

親が貧困だと「子どもに温かい環境」与えることができない。低所得の世帯に子育てに困難をかかえる親が偏っていることは明らかとなっている。

(2) 親の貧困は子どもの健康に悪影響を与える

国民健康保険の被保険世帯の 19%が保険料を滞納している。滞納が続くと、保険証が取り上げられ、「被保険者資格証明書」が発行される。証明書では医療費はいったん全額負担となるため、医療を受けることをためらい、治療がおくれて死亡するケースも報告されている。

(3) 親の貧困は子どもへの虐待を増加させる

児童相談所で「児童虐待」として保護されたケースにおける家庭の状況を分析した結果では、「生活保護世帯」、「市町村税非課税」または「所得税非課税」世帯が半数近くを占めており、低所得の世帯（特に、ひとり親世帯、および、二人親世帯でも父親の職が安定的でない世帯）にネグレクトを含む「児童虐待」が多く発生していることがわかる。

2. 子どもの貧困がもたらす負の相関関係

(1) 貧困と学力との間には明確な負の相関関係がある

OECD が 3 年ごとに行う「学力到達度調査（PISA 調査）」で、日本の 15 歳の子どもの数学、科学、読解力の成績は、年々低下してきている。その原因として、同時に行われている調査によって、日本の子どもの親の貧困化（貧困に伴う親の学歴の相対的低下）が進んでいることが原因の一つだとされている。

(2) 貧困は子どもの疎外感を高める

OECD の「生徒の学習到達度調査」では、「学校ではのけ者にされているかんじている」「学校は気後れして居心地が悪い」といった設問に対して、日本の子どもは他国の子どもに比べて圧倒的な割合で「とてもそうだと感じている」「そうだと感じている」と答えている。

そう答えたのは、「ブルーカラー」の親を持つ子どもたちであり、「ホワイトカラー」の親を持つ子どもたちは、逆に、「全然そうとは感じていない」と答える子供が多かった。

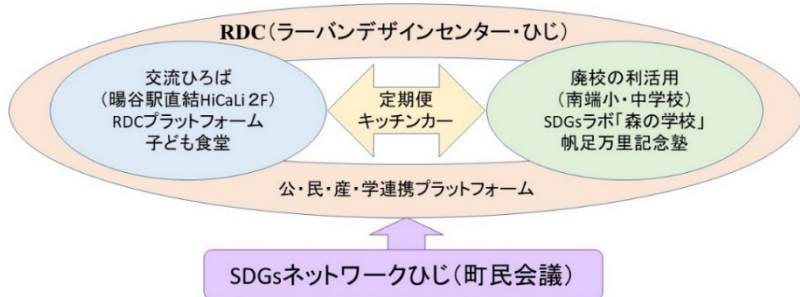
(3) 貧困は非行をも増加させる

家庭の貧困は、子どもが非行にかかわってしまう確率をも高める。2004 年、全国の少年院における新収容者の出身家庭の生活水準を見ると、富裕層が 2.8%、普通層が 69.8%、貧困層は 27.4%と、実に 3 割近くの少年院生が「貧困状態」陥っていたという。

また、少年がかかわった犯罪の度合いが重いほど、その少年が貧困世帯出身である確率が高い。ここで注意しなければならないのは、「貧困層の子どもは危ない」などというステレオ

タイプを創るべきではないことである。

子どもを非行に走らせてしまうような家庭に支援の手を差し伸べることが必要だということである。



3. 貧困は連鎖する

(1) 貧困の連鎖のメカニズム

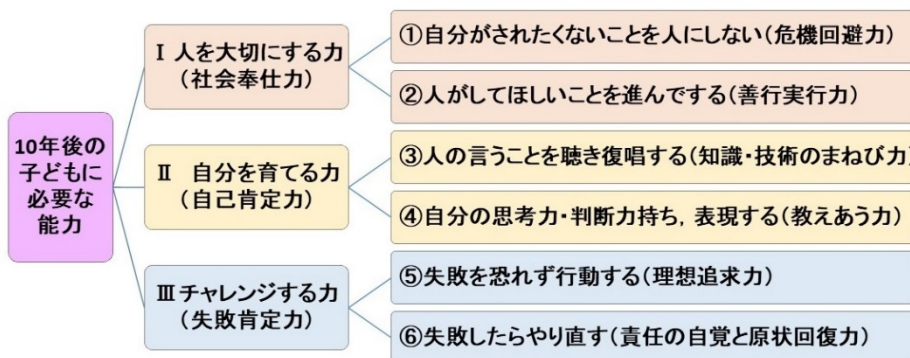
子どもの貧困は連鎖し、大人になってからも、不利な状況が続く。すなわち、子ども期に貧困であることの不利は、子ども期だけで収まらない。この不利は、その子が成長し大人になってからも持続し、一生、その子につきまとう可能性がきわめて高い。その理由は、図示化すると、以下の通りである。

15 歳時の貧困→限られた教育機会→恵まれない職→低所得→低い生活水準→世代間を超える貧困の連鎖

(2) 次世代の貧困を止めねばならない理由—市民としての資質の育成

子どもは、将来を担う大切な宝である。

私たちは、子どもたちが誰一人取り残されることなく、右のよう



な 3 つの資質 (社会奉仕力：人を大切にする力，自己肯定力：自分を育てる力，失敗肯定力：チャレンジする力) を持つ市民へを育てる責務を負っている。

これらの力を育てることを阻害する最大の要因が子どもの貧困だからこそ、私たちは、子どもの貧困を止めなければならないのである。

Ⅲ 大人が子ども（将来の社会を担う人材）にすべき支援

1. 日本人の子どもの貧困に対する無理解・無頓着

阿部彩『子どもの貧困－日本の不公平を考える』岩波新書（2008/11/20）を読んでいて、第 6 章（子どもにとっての「必需品」を考える）の以下に示す表 6-1（子どもに関する社会的必需品）（本書 186-187 頁）を見て、私は、ショックを受けた。

(%)

子どもにとっての必需品 または、必須事項の候補	絶対に 与えら れるべ きだ と思 う	望ましい が、与え られな くても 仕方 がない	与えら れなく てもよ いと思 う	わか らな い
1. 朝ご飯	91.8	6.8	0.3	1.1
2. 医者に行く（健診を含む）	86.8	11.2	0.6	1.4
3. 歯医者に行く（歯科検診も含む）	86.1	11.9	0.6	1.4
4. 遠足や修学旅行などの学校行事への参加	81.1	16.8	0.7	1.3
5. 学校での給食	75.3	16.6	4.7	3.4
6. 手作りの夕食	72.8	25.3	0.8	1.2
7. 高校・専門学校までの教育（希望すれば）	61.5	35.2	1.6	1.7
8. 絵本や子ども用の本	51.2	43.8	2.9	2.1
9. 子どもの学校行事や授業参観に親が参加	47.8	43.8	5.9	2.4
10. 短大・大学までの教育（希望すれば）	42.8	51.1	4.2	1.9
11. お古でない、文房具（鉛筆、下敷き、ノートなど）	42.0	48.7	7.1	2.2
12. 少なくとも一足のお古でない靴	40.2	51.2	6.2	2.2
13. 誕生日のお祝い（特別の夕食、パーティ、プレゼントなど）	35.8	52.4	9.7	2.1
14. 一年に一回くらい遊園地や動物園に行く	35.6	53.6	8.3	2.6
15. 少なくとも一組の新しい洋服（お古でない）	33.7	55.8	8.7	1.9
16. 友だちを家に呼ぶこと（小学生以上）	30.6	56.3	9.9	3.1
17. 適当なお年玉	30.6	56.3	10.5	2.6
18. クリスマスのプレゼント	26.5	52.7	18.5	2.3
19. 適当なお小遣い（小学生以上）	23.1	61.5	12.9	2.5
20. 子ども用の勉強机	21.4	57.0	19.3	2.2
21. 自転車（小学生以上）	20.9	60.4	15.7	3.0
22. 数年には一回は一泊以上の家族旅行に行く（海・山など）	20.7	58.6	17.7	3.0
23. 子ども部屋（中学生以上、兄弟同室を含む）	17.0	64.9	16.1	2.0
24. 親が必要と思った場合、塾に行く（中学生以上）	13.7	54.6	27.4	4.3
25. 少なくとも一つくらいのお稽古ごとに通う	13.4	53.3	30.6	2.6
26. 周囲のほとんどの子が持つスポーツ用品（サッカーボール、グローブなど）やおもちゃ（人形、ブロック、パズルなど）	12.4	65.9	18.7	2.9

子どもにとって「誕生日のお祝い」が絶対に必要だと思う人が、日本人には 4 割もいない (36.8%しかいない)、すなわち、日本人にとって、子どもの誕生日のお祝いは、与えられた方が望ましいが、家の事情で与えられなくても仕方がないと思っている人が半数を超えている (52.4%に達している) というのは、信じられないことではないだろうか。

本書によれば、イギリス人は、93%の人が子どもにとって「誕生日のお祝い」が絶対に必要だと考えているという (本書 190 頁)。確かに、自分の子の誕生さえも祝うことができない親も存在するが、実際には、日本の 95%の親が子どもの誕生日のお祝をしているのである (本書 196-197 頁)。そうすると、日本人は、「自分の子の誕生日」は祝うが、「他人の子の誕生日」については、経済的な事情などで祝われなくても仕方がないと思っているということになる。

日本人とは、他人の子どもに対してなんという薄情な、そして「他人の子どもの心に鈍感な国民」なのだろうか。どこの自治体でも、お年寄りの誕生日は公費を使ってお祝いをしている。それなのに、なぜ、誕生日祝いをされない子どもがいても、日本人は平気でいられるのだろうか。お年寄りの誕生日は「めでたい」が、子どもの誕生日は「めでたくない」のだろうか。こうしてみると、日本人にとって、「子どもの貧困」は、税金を使うべき「公共」の問題ではなく、親が自己責任を負うべき「私事」だと考えているように思われてならない。

むしろ、お年寄りの誕生日のお祝いと同様にして、自治体が、すべての子どもの誕生日に誕生祝いのメッセージと図書券などを届けるならば、子どもたちは喜び、地域社会との連帯感を持つようになるのではないだろうか。

さて、日出町は、人口約 2 万 9,000 人、子ども人口 5,000 人 (全人口の 17%)、一般会計の予算規模 108 億円という比較的小規模の自治体である。「子どもの誕生祝い」を中心として、子どものための支援策 (9,000 万円/年) は、私の考える限りでは、以下の通りである。

種別	行事	支援アイテム	単価 (千円)	価額 (千円)	想定される協賛企業 (例えば、負担額5割)	合計額 (千円)
毎年 の 行事	子どもの誕生日 のプレゼント	図書券	1	5,000	本屋、文具店	75,000
		文房具購入券	2	10,000	文具店、スーパー、コンビニ	
		靴購入券	3	15,000	靴店	
		洋服お仕立て券	4	20,000	洋服店	
		遊園地招待券	2	10,000	遊園地、動物園	
		パーティ会場利用券	3	15,000	ホテル、観光協会	
	クリスマス・ 新年行事	おもちゃ購入券	2	10,000	おもちゃ店	15,000
		お年玉(地域通貨)	1	5,000	信用金庫	
一回だけ の 行事	保育園入学	勉強机購入券	5	25,000	家具店、ホームセンター	75,000
	小学校入学	自転車購入券	10	50,000	自転車産業	

こどもの人口比率 (17%) から考えると、SDGs の一丁目一番地でもある子どもの貧困対策費用として、上記のように、一般会計予算の 8%ほどの金額を使うことは、それほど過分

なことではないように思われる。

2. 国際的に見た日本の貧困政策の貧弱さ

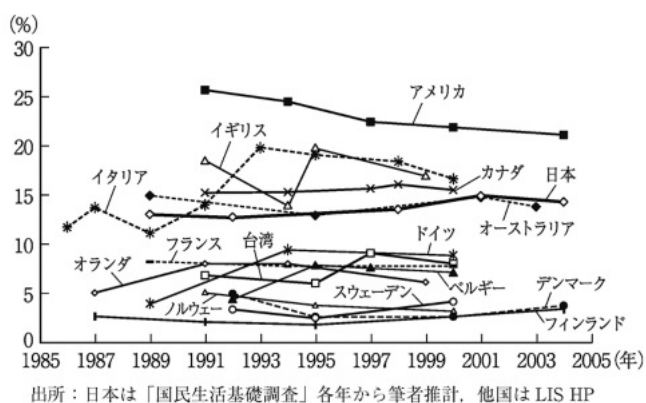


図 2-3 子どもの貧困率の国際比較

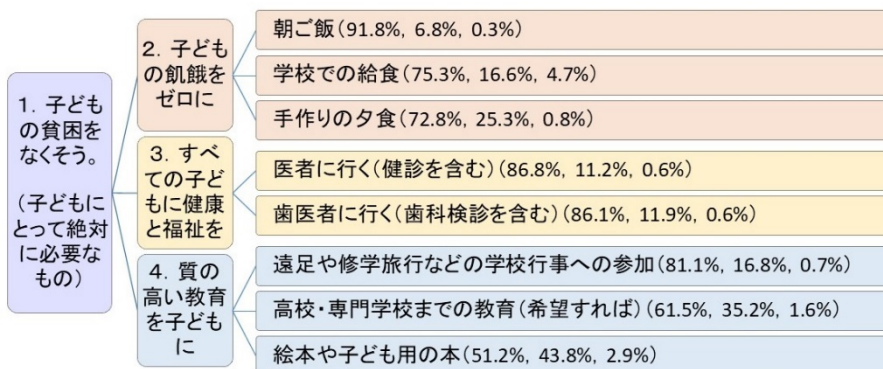
日本の貧困に対する社会支出（GDP の 0.75%）は欧州諸国，欧州諸国（GDP の 3%前後）に比べて極端に低い。また，日本の教育支出（GDP の 3.4%）も，欧米諸国（GDP の 5~7%）に比較して非常に少ない。

そればかりでなく，わが国においては，貧困世帯の所得のシェアが，6.7%と少ないにもかかわらず，

負担（直接税・社会保険料）のシェアが 7.9%となっており，欧米諸国との比較においても，所得よりも負担割合が多い唯一の国となっているのである（阿部彩『子どもの貧困－日本の不公平を考える』岩波新書（2016）53 頁）。

日本の社会政策には，「子どもの貧困に対する施策がほとんど欠落しており，また，教育政策においても，他国に比べると最低レベルの支出に抑えられている。したがって，政府に任していたのでは，子どもの貧困を救済することはできない。

子どもの貧困率が高い母子家庭（17 人に 1 人は母子家庭で育っている）に対する日本の政策（児童扶養手当）は，貧弱だけでなく，むしろ，縮小傾向にある。保育所の数も十分ではなく，教育に対する支援も貧弱である。



日本人の過半数が考えている「子どもにとって社会的に絶対に必要なもの」

保育所の数も十分ではなく，教育に対する支援も貧弱である。

子どもの基本的な成長に関わる基本的衣食住，少なくとも義務教育，そして，ほぼ普遍的になった高校教育のアクセスをすべての子どもが享受すべきである。

とりわけ，子どもの成長に不可欠の「食」について支援をすべきであり，子ども食堂の運営・援助をすべきである。

3. 青少年奉仕の第一歩としての「子ども食堂」の理論と実践

(1) 青少年奉仕の出発点は食育

「衣食足りて礼節を知る」というのは本当である。居場所もない上に、空腹では学習する意欲すら生じない。勉強をしなさいという前に、子供の腹を満たしてあげねばならない。勉強しろというのは、その後の問題である。

(2) 人間の体は食で作られ、維持されている

従来は、食事は、人間の栄養源として捉えられてきた。しかし、現在では、食事に含まれるたんぱく質を中心にして、食事が人間の体のすべての部分を作り上げていることこと、すなわち、食事が人間の肉と血を作り上げていることが明らかとなっている。

したがって、子どもに食事を提供することは、直接に子どもの体を作ることに、間接的に子どもの心を育てることに貢献していることになる。

(3) 子ども食堂の運営は SDGs のすべての目標の実現に寄与する



子ども食堂を運営して、お腹を空かした子どもたちに食事を提供することは、SDGs の第 1 目標(貧困をなくそう)、第 2 目標(飢餓をゼロに)、第 3 目標(すべての

人に保険と福祉を)、第 10 目標(人や国の不平等をなくそう)に貢献する。それだけではない、子ども食堂に無料塾を併設すれば、第 4 目標(質の高い教育をみんなに)や、そこでの話し合いを通じて、第 5 目標(ジェンダー平等を実現しよう)にも貢献することができる。

さらに、子ども食堂の献立の材料を地域の産物に限定するならば、第 14 目標(海の豊かさを守ろう)、第 15 目標(陸の豊かさを守ろう)にも貢献することができる。

そればかりではない、子ども食堂で育った子どもたちは、SDGs の精神を体現し、ゆくゆくは、SDGs のすべての目標を達成してくれるに違いない。

子ども食堂の運営は、次世代を担う子どもたちの誰一人も取り残されないという SDGs の最重要部分を実現する試みであり、ロータリークラブの青少年奉仕の中でも、もっとも重要な奉仕活動として位置づけられ、実践されるべきものと考えられる。

IV 結論

今回の IM では、子どもの貧困をなくすためのロータリークラブの支援策として、子どもの物理的な成長ばかりでなく、精神的な成長に欠かすことのできない、栄養のある食事を提供する方法について、特に、食品ロスをなくし、地産地消の精神に則った食材を使った献立（玄米おにぎり、味噌汁、番茶のみ）の子ども食堂を運営することを提案したい。

参考文献

- ・阿部彩『子どもの貧困ー日本の不公平を考える』岩波新書（2016）
- ・阿部彩『子どもの貧困 IIー解決策を考える』岩波新書（2014/1/22）
- ・飯沼直樹『地域で愛される子ども食堂 つくり方・続け方』翔泳社（2018/1/31）
- ・NPO 法人 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク（編）『子ども食堂をつくろう！ー人がつながる地域の居場所づくり』明石書店（2016/8/25）
- ・大川繁子『92 歳の現役保育士が伝えたい親子で幸せになる子育て』実務教育出版（2019/9/11）
- ・寛裕介『持続可能な地域の作り方ー未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン』英治出版（2019/5/10）
- ・蟹江憲史『SDG s（持続可能な開発目標）』中公新書（2020/8/20）
- ・鷹 咲子『給食費未納～子どもの貧困と食生活格差～』（光文社新書）
- ・木村泰子『10 年後の子どもに必要な「見えない学力」の育て方』青春出版（2020/11/20）
- ・全国こども食堂支援センター・むすびえ（湯浅誠・編）『むすびえのこども食堂白書ー地域インフラとしての定着をめざして』本の種出版（2020/12/22）
- ・成元哲「コロナ禍の子ども食堂ー食卓をめぐるソシアビリテの変容」『特集 コロナと暮らしー対策の現場から』現代思想 48 卷 10 号，青土社（2020/8/1）
- ・田淵俊彦=NNN ドキュメント取材班『発達障害と少年犯罪』新潮新書（2018/5/16）
- ・福岡伸一『生命と食』岩波ブックレット（2008/8/6）
- ・藤原辰史『給食の歴史』岩波新書（2018）
- ・幕内秀夫『子どもをじょうぶにする食事は、時間も手間もかからない』ブックマン社（2019/10/10）
- ・南博=稲場雅紀『SDGsー危機の時代の羅針盤』岩波新書（2020/11/20）
- ・山田和夫他『深刻化する子どもの貧困 子ども食堂を作ろう!』ほんの木（2016/1/20）
- ・与野輝=茅野志穂『現場報告"子ども食堂"これまで、これから』いのちのことば社（2019/5/1）
- ・L・ランダル・レイ（中野 剛志=松尾 匡・解説，島倉 原=鈴木 正徳・訳）『MMT 現代貨幣理論入門』東洋経済新報社（2019/8/30）